

A group of seven men, likely farmers, are standing in a field of mature green cabbages. They are dressed in various work clothes and boots. The man second from the left is holding a large, fresh cabbage. A semi-transparent green banner is overlaid across the middle of the image, containing the main title and subtitle in white Japanese text.

農業の新しいカタチ

～農福連携×半農半X～

Home Base



代表 畠 一希

ホームベース ハタ カズキ

Home Base 代表 畠 一希

プロフィール

◆平成2年生まれ 35才

◆兵庫県三田市（さんだ）

◆非農家出身

◆学生時代…

高校 体育科

⇒同級生にはプロ野球選手も

大学 知的財産学部

⇒野球ばかりしていました。



農業とは無縁
でした

ホームベース “Home Base” という屋号



野球におけるホームベース。

それは拠点、起点を表す。

いつだって野球は、ホームベースを中心に、
人が集まり、

たくさんのドラマがそこから生まれる。

農業だって同じ。

一次産業は、

私たち人間の生活を支える起点である。

だから、ここには、たくさんの人が集まり、誰
もが活躍でき、輝ける場であり続けたい。

そんな願いが込められています。



わたしの働き方

半農

- ◆令和3年4月～就農
- ◆耕作面積：4.8 ha（延べ）
- ◆栽培品目：黒枝豆・白菜
- ◆農作業日：週3日
- ◆臨時雇用2名



半X

- ◆平成25年 兵庫県内JA入組
- ◆営農相談員、枝豆担当選果施設導入等
- ◆出勤日：週3日
- ◆現在の業務：新規就農者などの地域の担い手への経営相談等



農業を始めたきっかけ

目の当たりにした課題

高齢化

生産力の低下

後継者不足

自身の想い

黒枝豆をもっと有名にしたい！

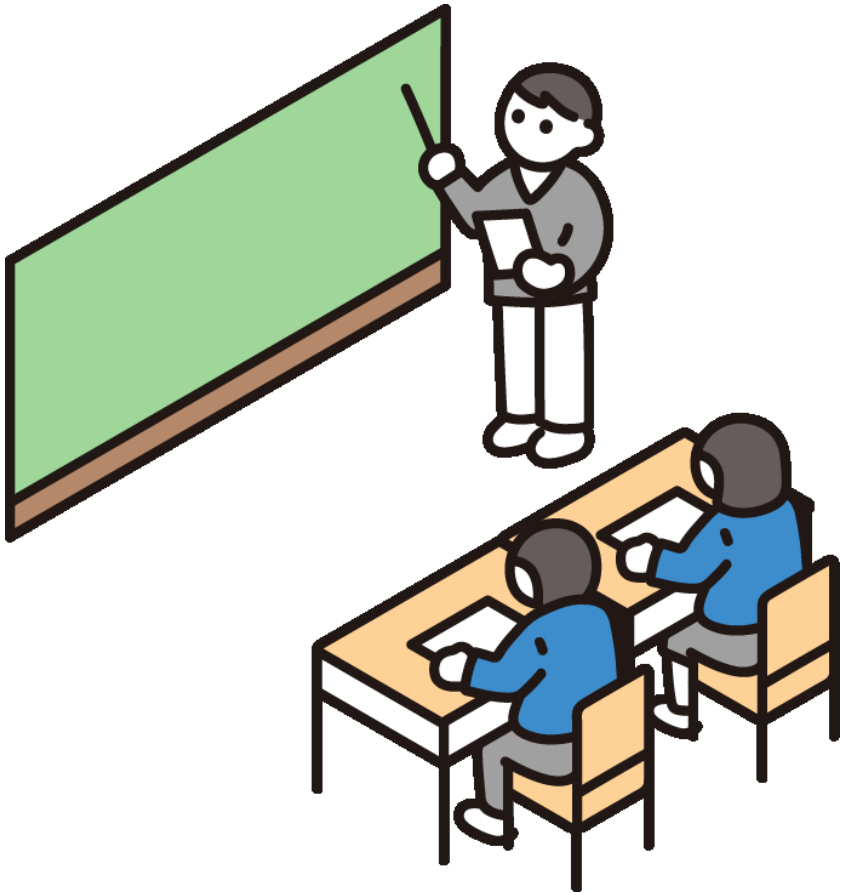
1億円産地の創造

もっと栽培面積増やしたい

どうやってこれらをクリアしていくか・・・

あれ？ 自分で就農するのが一番手っ取り早くない？ ⇒ 就農！

農福連携を始めたきっかけ part1



兵庫県主催 年複数回開催の
「農福連携研修会」に
参加していました。

研修会を通じて知ったこと

○障害者にとって、太陽の下での農作業はストレス軽減、社会的健康の改善に繋がるということ。

○コロナによって、内職仕事が増えていること

農福連携を始めたきっかけ part2



就農する際、研修のことを思い出し、
ぜひ自分も農福連携してみたい

それぞれの視点

【障害者】

外の仕事をしてみたい。緑や土に触れる仕事が健康に良い

【農業者】

スポットでもいいので、とにかく人手がほしい！

地域内では実践事例がなかったので、JA・行政に働きかけ、農福連携を実現

農福連携を実践するまで ※Home Base の場合

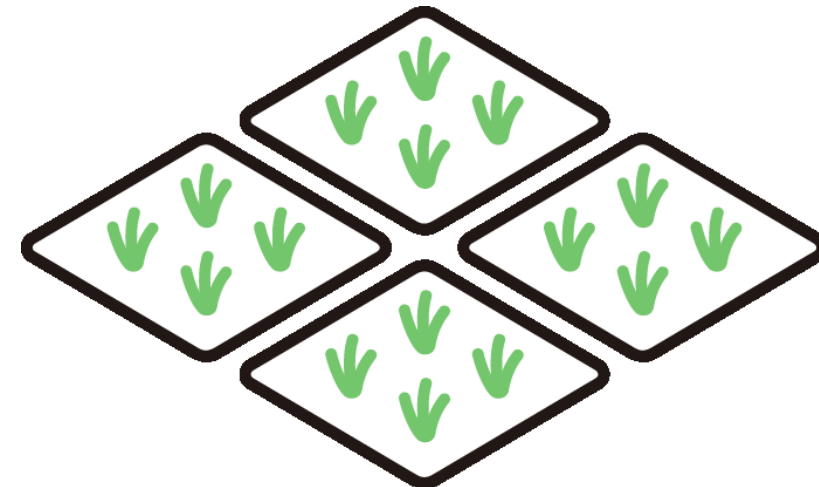


(1) JA、行政に相談

- ①JA営農センターへ相談
- ②JA担当者より、市役所 健康福祉課へ相談
- ③JA・市役所で打合せをしていただき、市内事業所へ募集を
- ④市内3事業所が農福連携を希望
- ⑤希望された3事業所・JA・市役所にて作業説明会実施

(2) 実際に圃場で何ができて、できないかの試験作業

- ①作業内容、速度、安全性、親和性、持続性等の検証
- ②上記を踏まえ、みんなで作業料金を決定
- ③作業日は固定（毎週火曜・木曜）でスケジュールを立てやすく





農福連携の取り組み概要 part 1



(1) 枝豆の運搬作業



- 作業時期 7月～10月の毎週 火・木 ○作業時間 10時～12時（内 休憩15～30分）
○作業量 1.5a～2a／日 ○作業代金 11,000円／10a

農福連携の取り組み概要 part 2



白菜の計量の様子
運搬した白菜を1個ずつ計量し、コンテナに詰めていく



白菜の袋詰めへの挑戦



新たな作業に向けての打合せ



当日作業の流れ

農家（全体監視）



当日の作業内容の確認

- 収穫場所
- 収穫数
- 注意事項等

ジョブコーチ



作業内容の指示

- 作業内容
- 注意事項等

利用者



課題と解決策の例



悩み①

作業委託時の収穫作業の負担を軽減してあげたい



解決策①

兵庫県農福連携推進事業を活用し、電動収穫バサミを導入

各段に作業速度が向上！

熱中症対策
の義務化

悩み②

暑い時期の作業もあるため、熱中症対策等を安全面の対策をしたい



R7 スポットクーラー
水冷服の導入

近年の酷暑に対応するには・・・
悩み中

農福連携に取り組んでよかったこと



- ・ 1日あたりの作業量が増えることで売上UP
- ・ 自社パートの作業負担の軽減
- ・ 他作業へ着手できることで他品目の管理作業ができる
- ・ 自分たちでは足りない・追いつかない作業の補完



- ・ 外作業を楽しんでもらえている
- ・ 前向きに作業に来ていただけ、楽しい
- ・ 事務所内での作業が向く人もいれば、向かない人もいる。外作業だから輝ける人がおり、新たな活躍の場として実践できている。

農福連携の取り組むにあたって（農家側）



向かない人

- ・ 健常者と同等程度の作業スピードを求める
- ・ 利用者の方に直接たくさんの指示を出す
- ・ 社会貢献意識が低い
- ・ 単に労働力として考えている



必要な心構え

- ・ 障害者の特性等への理解
- ・ 特性に応じた作業内容の委託
- ・ 社会貢献、SDGS的観点

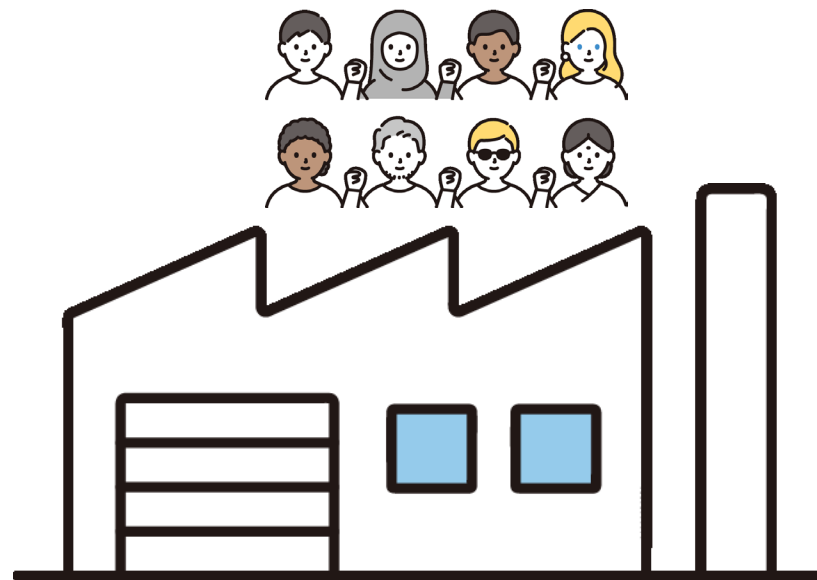
（多様な人材の働く 場所の創造）

実際に取り組んでいますが、難しいこともたくさんあるのが現状です。

大切なのは農業者の障害者への理解と心構えです。

農福連携に関する 将来の目標

- (1) 年間雇用
- (2) 拠点づくり (選果・加工)
- (3) 多様な人材交流



【将来展望】

屋内・屋外、それぞれ一人一人に合った仕事を年間提供し、楽しく働ける拠点づくり

農福連携に取り組もうか、考えている方へ

今は国が農福連携に取り組むにあたってバックアップ体制が整備されています。

まず一度、最寄りの農福連携窓口へ相談しに行ってください。

必ず、農業者にとって、経営のプラスになります。

農福連携も全ては縁です。

自身の良きパートナーとなる事業所との縁があることをお祈りいたします。

A group of seven men, likely farmers, are standing in a field of mature green cabbages. They are dressed in outdoor work clothes, including jackets, hats, and rubber boots. Two of the men are holding large cabbages. The background is a dense field of similar cabbages.

ご清聴ありがとうございました

Home Base



代表 畠 一希